

令和2年度 第2回

サービス管理責任者・  
児童発達支援管理責任者更新研修

演習ガイダンス(課題1・2・3)

令和2年11月4日(水)

10:40~16:40

# 更新研修の目的・獲得目標

## 目的→自己検証

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る(1時間)
  - ②サービス管理責任者・児童発達管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る(5時間)
  - ③サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ(7時間)→R5まで経過措置(省略しても良い)
- ※サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者を以下「サビ児管」と表示しています

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サビ児管としての自己検証	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに自立支援協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 自立支援協議会の役割を理解する
③	事例検討	サービス提供職員へのスーパービジョンの具体的な技術を獲得し、実践に活かす

## サビ児管更新研修 演習の全体の流れ

1. 演習の役割決め(進行:3名 記録:3名 発表:1名)
2. 事前課題の個人発表と質疑
3. グループワーク
4. 全体共有(発表)
5. 個人ワーク(決意表明)

### 研修受講ガイドンス

事業所としての  
自己検証

役割決め  
演習①のポイント  
グランドルール

課題  
演習①

全体共有  
発表  
3グループ

サビ児管として  
の自己検証

演習②のポイント  
グランドルール

課題  
演習②

全体共有  
発表  
3グループ

関係機関との  
連携等の  
自己検証

演習③のポイント  
グランドルール

課題  
演習③

全体共有  
発表  
2グループ

個人ワーク  
決意表明

## サビ児管更新研修の演習スケジュール

- 10:40～12:00 演習1 事業所としての**自己検証**  
演習1 全体共有と振り返り  
演習1 まとめ
- 12:00～12:50 昼食休憩
- 12:50～14:50 演習2 サビ児管としての**自己検証**  
演習2 全体共有と振り返り  
演習2 まとめ
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～16:10 演習3 関係機関との連携等についての**自己検証**  
演習3 全体共有と振り返り  
演習3 まとめ
- 16:10～16:30 個人ワーク(決意表明)
- 16:30～16:40 全体まとめ

## グランドルール グループワークでの留意点

- 笑顔を大切に周りの人に関心を持って、積極的に参加しましょう
- 他の方の発言に敬意をはらいましょう
- 自分と意見が違ったとしても相手の良いところに注目しましょう
- 他の方に自分の意見を押し付けないようにしましょう
- 1回の発言は長くて90秒と心がけましょう
- 『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の損』を念頭におきましょう
- ドッチボール禁止、キャッチボールをする感覚を共有しましょう
- 会議後の立ち話で決定が変わらないようにしましょう
- ユーモアを忘れずに

## 演習1～3の留意点【各セッション共通】

1. 演習中の進行は受講者が行います  
ファシリテータは進行のフォローや取りまとめる際の助言等を行います
2. 報告及び質疑の時間は厳守してください  
タイムキーパーはファシリテータが行います
3. 出来るだけ多くの受講者が発言できるようにしてください
4. 批判的な発言が目立つようならグラウンドルールを読み直しましょう

# 演習の役割決め

10:40～10:50（10分） 自己紹介・役割分担・課題配布

## ○役割分担

司会3名、記録3名、発表1名を決める

演習1→司会1名、記録1名

演習2→司会1名、記録1名

演習3→司会1名、記録1名

発表→1名（課題1、2、3の中で1回発表）

# 演習1スケジュール

11:00～11:44

(6名 × 4分 = 24分) + G内討議20分 = 44分

○演習1 事業所としての自己検証

11:44～11:55 3G × 3分 = 9分

○演習1 全体発表と振り返り

11:50～12:00

○演習1 まとめ

## 事業所としての自己検証

サビ児管の業務には、利用者への支援から支援員への助言・指導、苦情対応や管理者への支援状況報告など、その役割は多岐にわたります。しかし、サビ児管業務を行うに当たっては、サビ児管が業務を行う環境(風土)を整えることも同時に必要です。ここでは組織環境について再確認します。

### 研修受講ガイダンス

事業所としての自己検証

演習のポイント

事前課題  
1

全体共有

- ① 事前課題1の個人ごとの報告
- ② 報告に対して改善策やアイデアをグループ内で共有する
- ③ 全体共有(発表)

## 演習1の手順

11:00~12:00 事業所としての自己検証

### ①事前課題1の報告【発表時間1名4分×6名=24分】

- ・発表(3分)→質疑(1分)を行う。
- ・「**良いと思う取組み**」を付箋にメモをとる。その際1枚の付箋に1つの事柄を記入する。

### ②報告の「良いと思う取組み」を共有する【20分】

- ・付箋にメモしたものをKJ法で整理しどこでもシートにまとめる。

### ③全体共有(発表)【3G×3分=9分】

- ・発表Gは3G

### ④まとめ

# 演習1の留意点

1. グループ内での内容整理は、批判的なことは避け、良い取り組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを抽出する

2. 報告時の「良い取り組み」として見る視点→組織の工夫

- ①情報伝達や共有方法(日常業務のコミュニケーション、会議等)
- ②サビ児管のフォローアップ体制(サビ児管が困ったときの相談できる体制)
- ③チームアプローチ(管理者や看護師、支援員など事業所内の連携の工夫)など

「良いと思う取り組み」→付箋にメモする

**演習1:発表**

**11:44~11:55**

**3分 × 3G = 計9分**

# 演習1:まとめ

休憩

12:00~12:50

## 演習2スケジュール

12:50～12:55

○演習2 ガイダンス

12:55～14:40(105分)

○演習2 サビ見管としての自己検証

14:40～14:50

○演習2 全体共有と振り返り

## サビ児管としての自己検証

サビ児管の業務内容は多岐にわたります。演習2では、①個別支援計画の作成(意思決定支援の展開)、②支援記録、③会議の実施、④支援員への技術指導及び助言、⑤苦情解決、⑥虐待防止(権利擁護)、⑦機密の保持について自己の業務を振り返ります。そして、サビ管として行うべき業務を整理します。

### 研修受講ガイダンス

サビ児管としての自己検証

演習のポイント

事前課題2

全体共有

- ① 事前課題2の個人ごとの報告
- ② 報告に対して改善策やアイデアをグループ内で共有する
- ③ 全体共有(発表)

## 演習2の手順

12:55~14:50 サビ児管としての自己検証

- ①事前課題2の報告【発表時間1名13分×6名＝78分】
  - ・発表(10分)→質疑(3分)を行う
  - ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを付箋にメモする
- ②報告に対して改善策やアイデアを共有する【27分】
  - ・付箋にメモしたものをKJ法で整理しどこでもシートにまとめる。
- ③全体共有(発表)【3G×3分＝9分】
  - ・発表Gは3G
- ④まとめ

# 演習2の留意点

## 「改善策・アイデア」について

- ①どのようにしたら10点に近づけるか
- ②自分はこのようにしたら改善したなどの工夫  
または周囲の協力によってできていることを

→付箋にメモする

# 課題の話し合い項目

**演習2:発表**

**14:40~14:50**

**3分 × 3G = 計9分**

# 演習2:まとめ

休憩

14:50~15:00

## 演習3スケジュール

15:00～15:05

○演習3 ガイダンス

15:05～16:00(55分)

○演習3 関係機関との連携等についての  
自己検証

16:00～16:10

○演習3 全体共有と振り返り

## 関係機関との連携等の自己検証

①関係機関との連携、②相談支援専門員との連携、③担当者会議の開催、④自立支援協議会への参加等について自己の業務を振り返ります。特に、相談支援専門員との連携は欠かす事は出来ません。どのような連携が望ましいかを検討します。また、事業所外で生じる問題を地域課題として捉え、解決に向けて関係機関との連携や自立支援協議会の活用について理解を深めます。

### 研修受講ガイドンス

関係機関との連携等の自己検証

演習のポイント

事前課題3

全体共有

個人ワーク

- ① 事前課題3の個人ごとの報告
- ② 報告に対して改善策やアイデアをグループ内で共有する
- ③ 全体共有(発表)

## 演習3の手順

15:05～16:10 関係機関との連携についての自己検証

- ①事前課題3の報告【発表時間1名6分×6名＝36分】
  - ・発表(4分)→質疑(2分)を行う
  - ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを付箋にメモする
- ②報告に対して改善策やアイデアを共有する【19分】
  - ・付箋にメモしたものをKJ法で整理しどこでもシートにまとめる
- ③全体共有(発表)【2G×4分＝8分】
  - ・発表Gは2G
- ④まとめ

# 演習3の留意点

「改善策・アイデア」について

- ①どのようにしたら10点に近づけるか
- ②自分はこのようにしたら改善したなどの工夫  
または周囲の協力によってできていることを

→付箋にメモする

演習3:発表

16:00~16:08

4分×2G=計8分

# 演習3：まとめ①

# 演習3：まとめ②

## 個人ワーク

16:10～16:30 関係機関との連携についての自己検証

16:10～16:30

### ○個人ワーク

- ①「研修後サビ見管としてどの様に取り組むか」
- ②決意表明の記入とグループ内で決意表明

16:30~16:35 全体まとめ

長時間に渡り研修ご苦労様でした

帰宅後コロナウイルス感染に係る  
症状が出た場合は、速やかに  
協会事務局までご連絡ください